

# リウマチだより

VOL.11 院内版 2024年8月1日発行



リウマチ科みやもと 院長 宮本茂輝

〒526-0034 滋賀県長浜市弥高町 269 番

TEL : (0749)53-3887 / FAX : (0749)53-3877

URL : <https://rheumatoid-arthritis-miyamoto.jp>



↑  
ホームページは  
こちらか

## 🍅 リウマチ豆知識 🍆

今回は、当院開業後2年を経た2024年4月時点での当院通院中の関節リウマチ（RA）患者さんのデータを示します。

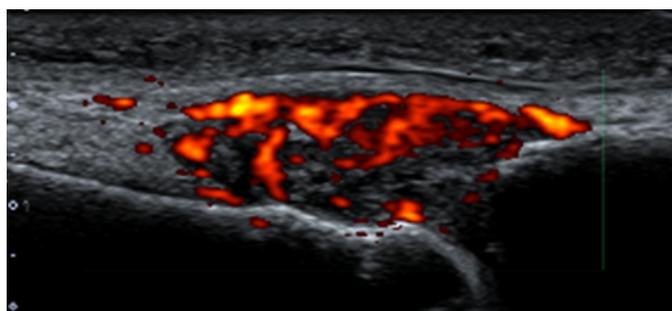
【RA患者数】 260名以上（うち抗CCP抗体陽性者186名）

【年齢（中央値）】 64歳

【男女比】 男性：19%、女性：81%

【疾患活動性（SDAI）】 寛解：54% 低疾患活動性：32% 中疾患活動性：7% 高疾患活動性：0% 不明：7%

RAの疾患活動性をCRP値のみで判断するのは明らかな間違いです。以前のリウマチだよりで何度も強調してきたことですが、手指・手・足趾関節などの小関節に関節炎があっても、ほとんどの場合CRP値は正常です。関節炎が高度であっても、自覚症状と乖離し関節痛がほとんどない場合があるため、CRP値だけで病勢を評価してしまうと、患者も医師も知らず知らずのうちに関節破壊が進行してしまい、関節変形に至ることがあります。



左の写真は中足趾関節（MTP関節：足の指の付け根）の関節エコー写真です。CRP値は0.03mg/dlと正常ですが、高度な関節滑膜炎が存在します。患者さんにはほとんど疼痛の訴えがなかったのですが、これを放置すればほぼ間違いなく足趾の変形につながることを繰り返し説明し治療を強化しました。

### 【メトトレキサート（MTX）】

・使用率：60%（内服：88%、皮下注：12%）

・MTX10mg/週以上：54%

MTXはRAの第一選択薬の位置づけですが、高齢・腎障害・肺病変を有する例では、慎重にその適応を考慮（場合によっては禁忌）します。MTXは4~6mg/週などの少量で使用してもそのポテンシャルを十分発揮できません。副作用に留意しつつ、十分量投与することが肝要です。また、MTX内服で嘔気などの消化器症状が強い際には、MTX皮下注製剤（メトジェクト皮下注®）が良い適応になります。

## 【グルココルチコイド（GC：ステロイド）】 使用率：5%

RA 診療における GC 使用は、「使用する場合は必要最小量、可能な限り短期間（数か月以内）で漸減中止」となっています。つまり、GC は漫然と使用してはならず、抗リウマチ薬をしっかりと使うことが重要です。

## 【生物学的製剤・JAK 阻害薬】 使用率：47%

疾患活動性を抑え、関節破壊の進行を抑制するためには、強力な抗リウマチ作用を有する生物学的製剤や JAK 阻害薬の投与が必要となるケースがあります。

一方で、疾患活動性を抑えることは関節破壊の進行を抑制するばかりではありません。疾患活動性が高い状態が続けば、間質性肺疾患の増悪や腎障害、感染症のリスクにもなります。

リウマチ専門医は、RA による種々の臓器障害や薬剤の副作用に留意しながら、GC に依存せずしっかり抗リウマチ薬を使いこなし、こまめに患者さんを診る必要があります。

## 🍉 ビバシティ彦根にて講演会 & 相談会を行いました 🌻

半年に 1 回開催している患者さん向けの「リウマチ講演会 & 相談会」を、今回はビバシティ彦根で行いました。関節リウマチ診療における触診の重要性、関節エコーの有用性や関節リウマチ治療中の様々な合併症など、私のクリニックでの診療を再現した模擬診察も交えて、お話ししました。講演後には、質疑応答の時間を設け、普段患者さんが抱えている疑問にお答えしました。これからも患者さんへの情報提供の場を定期的に設ける予定です。講演会・相談会の開催予定などクリニックの活動情報は、当院のホームページやインスタグラムで公開しています。ぜひチェックしてください！



情報提供の場を定期的に設ける予定です。講演会・相談会の開催予定などクリニックの活動情報は、当院のホームページやインスタグラムで公開しています。ぜひチェックしてください！

Instagram はこちらから→



体調不良時は  
我慢しないで！！

- ・発熱 ・嘔吐 ・腹痛
- ・ひどい咳 ・下痢
- ・インフルエンザにかかった
- ・コロナにかかった など

## ★当院までお電話ください！★

明らかに普段とは違う体調不良がある場合にはメトトレキサートを中止して、当院までお電話をお願いします。お薬を継続しても良いのか、こちらで判断し、対応をお伝えします。

(0749) 53-3887 ※診療時間内のみ ※夜間・休診日に症状が悪化するようであれば、お薬手帳と直近の血液検査の結果を持

参の上、救命救急センターを受診し、後日診療時間内に当院までご連絡をお願いします。

